



第13号

発行所 小田原市役所 小田原市幸1の138 編集兼発行人 小泉重雄 印刷人 石橋貞吉 定価一部三圓

昭和二十六年市政方針

鈴木市長議会で説明

昭和二十六年の新しい年不足を補うものとして考度を迎えるに当りまして、えられた平衡交付金は、私の所感と、本年度に於て予想よりはるかに下廻るるの施設の方針とを申上り、額となり、ために、本市が皆様の御賛同と御協力財政はまつたく困難な事力を得たいと存じます。現下、我が国の状態を、このことは政府の見ますに、国民生活は一応安定の段階に達し、待望の講和もいよいよ近きに迫りこの意味に、財政難の原においては希望の年と言いはれ、一時休止によつて与え得るものでありますが、一方、波瀾多きを予想され、海外四圍の状況を累加するものであり、再開後の競争は、順調な成績を挙げている、主自立の道へ邁進しな、ければならぬことを考、え、ますと決して安易な、年とは言い難いのであ、り、直接住民の生活に關、する自治性の培うべ、しその自立性を培うべ、き任務を持つ地方自治、体の使命は非常に重大、で、そのために地方分、権の確立が急がれ行政、再配分の問題が考究さ、れて、いるのであります、が、その根本要件たる、財政的処置は、きわめ、て円滑を欠き、例えば、昭和二十五年年度にお、ける平衡交付金のごとき、は、地方の実状に即せ、ず、大多数の地方自治、体に大きな打撃を与え、たのであります。本市もまた、この例に洩、れず、二十五年年度の前半、においては、地方税法の、変革に原因する徴税の空、白時代を現出したのであ、ります。しかし、その空、白を埋め、且つ、財源の、

すべきことはここに山、積集中された額がある、のであります。これに、加うるに、数次にわた、つて颯風の災害を蒙り、一昨年のキヤイ颯風に、よる被害復旧という大、事業も、二十五年年度、において成し遂げなけれ、ばならなかつた訳で、前述のごとき財政事情、下にありながらも、本、市は多くの事業を押し、進めてきたのでありま、す。しかし、昨年は市制施行、十周年を迎え、我々は今、こそ将来の基礎を作る、べき時であるとなし、市、会各位の積極的協力の、もと、数々の記念事業を行、つたのであります。これ、らと併行して、様々な建、設の事業が起されたこと、は、小田原市にとつて、慶賀に堪えないところで、あります。即ち、漁港の、構築、各學校をはじめ、公、民館、庶民住宅の建設、失火救済、河川道路の改、修新設、保健衛生、警察、消防の整備充実、水道水、源の拡張、商工業の振、興等、二十五年年度の、事業は実に画期的なもの、が、傾注して来たのであ、ります。この間、都、市としての体制を整え、ることは容易に出来る、ことではなかつたので、あります。したがつて、本市が西湘地方の中心、都市として、当然、具、備しなければならぬ諸、施設は、ようやく近年、に至つて着手し得たよ、うな次第で、実施実現、

いすれの町村におきま、しても、それぞれの伝、統と歴史とを持たれて、いるのであります。さら、この合併問題がたやす、く進み得るとは考えな、いのであります。西、湘地方一帯の将来の發、展を企図し、進んで住、民の福祉増進を期する、時、その共存共榮のた、めの総合的施策を樹立、し実施すべき体制の実、現を心から希望するも、のであります。この、意味において、各町村、の認識と理解とが、一、層深められるよう念願、するのであります。次に、民生生活安定の問題、につきましては、社会保、障制度の一端として、県、下他都市にさきがけて採、り上げました国民健康保、険は、いよいよ、来る四月、一日をもつて発足するこ、とになったのであります、が、議員各位並びに国民、健康保険準備委員会委員、の、過去一年間にわたる、真摯な調査研究に對し、深く謝意を表する次第で、あります。しかしながら、この運営の完璧を期する、ためには、相当の用意と、覚悟をもつて当らなけれ、ばならぬことは当然で、あります。即ち、同時に、医療担当者の方々の、絶大なる御尽力と市民各、位の深い理解とを得ずし、ては、所期の目的を達し、得ないと考えられます。この点に關し、是非共、御協力を得たいと御願、い、まして、例えば、酒、匂、関係各町村に深き、関心を喚起したのであ、ります。国府津町にお、ける、すでに合併研究、のための委員会が結成、され、町会においても、十分な努力を払つて行く、ことに致したいと存する、のであります。産業方面において多大、の期待をかけられてい、る小田原漁港構築工事、は、その後着々進行い、るの場所と致したいと考、へ、たし、本年度は予算も、昨年度に倍加して、本、格的工事に入る段階に、至つて、各展示会、品評会等、開催も考えられ、ある、

は児童福祉の面にも役立、たしめ、学校の終学旅行、吸引についても、最善の、努力を払いたいと思つ、てあります。その他産業面において、中小企業の振興、農業経営の合理化等に、意を注ぎ、厚生事業、保健、衛生等について、も、又、警察、消防等、についても、格段の考、慮を致したいと考へて、いるのであります。競輪事業は本市の大、きな財源になつて居り、ま、す。その運営に、万全を期して、昨秋の自、粛休止による打撃も、再、開後の好調により順次恢、復に向いつつある状態に、あります。しかし小田原、競輪はその施設を日本競、輪株式会社より借入れて、円、の起債が許され、これ、によつて、水源並びに配、水管の拡張を完成致しま、すので、向後夜間断水は、このことなくしては、絶、對に将来の発展は期し得、ざるものと信するもので、あります。以上のごとく本年は苦し、しい財政事情にあり、予算、を得るものとは決して考、えていないのであります、殊に本年は地方選挙が目、前に迫り、過去四年間に、わたつて、非常な御協力、を払われた各位の今任期、中における最後の予算審、議に當るわけで、皆様に、なるべく、御考慮、の考へを総括して申述べ、れば、二十五年年度にお、ける、打撃を建て直すとい、う、心構えを先づ堅持し、し、かも将来の建設につな、がる必須なものは、これ、を、重点的に採り上げ、また、継続事業の完成に努力す、べきは言うまでもありま、す。せぬが、新しき事業に對、しては慎重に考慮しつ、つて、御諒察下さるよう願、う次第であります。

昭和二十四年度決算認定

市議会 二月定例会

柳岡金次郎、田代吉五郎、井上政重、佐久間弁藏、真壁賢二、府川市郎、毛利彌三郎、な委員の互選により、委員長に山橋議員が當選した。

一、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

二、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

三、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

四、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

五、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

六、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

七、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

八、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

九、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

一〇、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

一一、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

一二、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

一三、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

一四、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

一五、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

一六、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

一七、昭和二十六年小田原市歳入歳出予算案

